

タイトル!! 『汐製菓会社の新作キ
ヤンデー』

登場人物

汐（しお）（30代）

汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世
を面白く」をモットーに、奇想天外な菓子商
品を発案する快活な性格。何事も前向き
で、時には無茶とも思えるアイデアを次々と
打ち出す。

塩田（しおた）（30代）

汐の秘書で真面目かつ心配性。汐の突拍子
もない発想に振り回されるが、実は大のお菓
子好き。子供の頃からお菓子を愛し、製菓
会社に就職したが、日々の業務は予想以上
に波乱万丈。

シーン①：汐のアイデア

場面… 汐製菓会社・会議室

（会議室の大きなテーブルの上には、様々なお菓子の試作品が並んでいる。汐は自信満々に立っており、塩田はノートを手に座っている。）

汐（満面の笑みで）

「塩田くん！ 次の大ヒット商品は、これだ！」

塩田（興味津々）

「次の…大ヒット商品ですか？」

汐（誇らしげに）

「そうさ、カルパッチョ味のキャンディだ！」

塩田（驚愕しながら）

「カルパッチョ味！？ 社長、それは生魚とレモン、オリーブオイルの…あのカルパッチョですか？」

汐（興奮しながら）

「その通りだ！ 甘いだけのキャンディはもう古い。これからは、酸味と旨味が融合した新しい味覚の革命を起こすんだ！」

塩田（困惑しながらも慎重に）

「ですが、キャンディを食べる人がカルパッチョの味を求めているとは…」

汐（勢いよく）

「塩田くん、世の中の常識を壊すのが私たちの仕事だよ！ 誰もが想像もしない味を作り出して、それを世界中に広めるんだ！」

塩田（内心でため息をつきながら）

「…承知しました、社長。でも、試作に入る前に少しリサーチをした方が良いかと…」

汐（既に頭の中で勝利を確信している）

「リサーチなんて必要ない！ アイデアが革新的なら、あとは勢いで乗り切るだけだ！」

シーン② 試作スタート

場面… 会社の製造部門

(工場内では、スタッフが慎重にキャンディの材料を混ぜ合わせている。塩田は監督役で、汐はエプロンをつけてワクワクしている。)

塩田(スタッフに指示を出しながら)

「もう少しオリブオイルを足してください…でも、生臭さは出さないように…」

汐(興奮気味に)

「その調子、その調子！ 最高のカルパッチョ味を目指すんだ！」

スタッフA(困惑しながら)

「カルパッチョ味のキャンディなんて、聞いたことがないですけど…」

塩田(静かに)

「そうですね、聞いたことがないのが普通なん

です。というより、あまり聞きたくないかも
…」

汐（耳を傾けずに）

「塩田くん、味見を頼むよ！」

塩田（洪々試食しながら）

「ええつと…（口に入れて）…うーん、これは
…」

汐（期待を込めて）

「どうだ！？革命的だろう？」

塩田（言葉に詰まりつつ）

「その、確かに今までにない味です。でも、キャンディとしてはちよつと…あまりに個性的かも
…」

汐（自信満々に）

「個性が命だ！このキャンディが世界を変えるー！」

塩田（内心で苦笑い）

「変えるというか、混乱させるかもしれませんが
ね…」

シーン③：社内プレゼン

場面… 汐製菓会社・プレゼンテーションルーム

（プレゼンルームには会社の重役たちが集まり、汐がキャンディの試作品を手にして壇上に立っている。）

汐（熱弁しながら）

「皆さん、これが次のヒット商品、『カルパッチ
ヨキャンディ』です！」

重役A（眉をひそめて）

「カルパッチヨ…キャンディ？」

重役B（興味を持ちつつも疑念を抱き）

「それはどんな味になるんでしょうか？」

塩田（横から小声で）

「社長、説明はほどほどに…試食が…」

汐（自信満々に）

「説明よりも、まずは味わってみてください！」

塩田くん、配ってくれ！」

（塩田が試作品を重役たちに配る。重役たちは一斉に口に運び、顔が微妙に歪む。）

重役A（眉をしかめつつ）

「これは…確かにカルパッチョの味ですが…キャンディとしては…どうなんでしょう?」

重役B（戸惑いながら）

「この酸味…オリーブオイルの風味…新しいと言えは新しいですが…」

汐（自信たつぷりに）

「これが未来の味覚革命です！世界中が驚くこと間違いなし！」

塩田（内心でドキドキしながら）

「（小声で）社長：…どうやら、革命はまだ早かったかもしれません…」

汐（意に介さず）

「さあ、製造ラインを整えて、すぐに量産だ！
私たちが世界を変えるんだ！」

シーン④ 国内外の反応

場面… 汐製菓会社のエントランス

（汐製菓会社のエントランスでは、新商品のキヤンデイが華々しく展示されている。記者やバイヤーたちが集まり、汐は満面の笑みで対応している。）

記者▶（マイクを向けながら）

「汐社長、今回のカルパッチョキヤンデイについて、消費者の反応はどうですか？」

汐（堂々と）

「素晴らしい反応をいただいています！皆さん、一度食べたなら忘れられないと言っていますよ！」

バイヤー（困惑しながら）

「ええ、確かに忘れられない味ですね…特に、ある意味で…」

塩田（少し青ざめながら）

「（小声で）社長、クリームも増えてきています。『これは本当にキャンディなのか？』とか、『生魚の味がするのは不思議』とか…」

汐（意に介さず）

「全ては挑戦だ！人々はすぐには理解しないかもしれないが、時間が経てばきっと…」

塩田（心配そうに）

「…理解される前に、売れ残りが山積みにならないと良いのですが…」

シーン5: 想定外の展開

場面… 汐製菓会社・オフィス

(汐は自信たっぷりに椅子に座り、塩田はパソコンを操作しながら何かを確認している。)

汐(満足げに)

「さて、そろそろ海外からの注文も増えてくる頃だな！」

塩田(パソコンの画面を見ながら)

「社長、大変です…! 『カルパッチョキャンデー』が、海外でとんでもない誤解を受けています！」

汐(驚いて)

「何!?? どんな誤解だ?」

塩田(慌てながら)

「海外では、これはジョークグッズだと思われています! 『一度食べたら二度と忘れられない』」

い』という口コミが広がって…』『恐怖のキャンディ』として話題になっています…」

汐（目を輝かせて）

「素晴らしい！恐怖のキャンディとしてヒットするなら、それも良し！」

塩田（頭を抱えながら）

「社長、それはポジティブすぎます…でも、確かに売れています…その、コンセプトが…」

汐（得意げに）

「世の中に一石を投じるのが私たちの使命だ。怖くても、美味しくなくても、話題になれば成功だ！」

塩田（ため息をつきながら）

「…どうやら、汐社長の発想力には誰も追いつけませんね…」

シーン⑨：逆転のチャンス

場面… 海外のバイヤーとのオンライン会議

（汐と塩田は、海外のバイヤーとオンライン会議をしている。バイヤーの顔には笑顔が浮かんでいる。）

バイヤー（笑顔で）

「汐社長、このキャンディ、予想以上の反響ですよ！ 恐怖の味覚チャレンジとしてイベントに使いたいという依頼が殺到しています！」

汐（満面の笑みで）

「ほら見たまえ、塩田くん！ 世の中は面白くないことばかりじゃないんだ！」

塩田（微笑みながら）

「社長の言葉が… やっと理解できた気がします…」

汐（自信たっぷり）

「次は何を作ろうか？ そうだな… 納豆味のチョコレートなんてどうだろうか？」

塩田（驚愕しながら）

「な、納豆味のチョコレート！？社長、それもまた…」

汐（笑いながら）

「さあ、次の革命を起こすぞ！」

塩田（呆れながらも微笑んで）

「はい、社長！全力でサポートします…！」

（幕が閉じる）

終幕